



平成 18 年 1 月 17 日

(Saitama Infectious Agents Surveillance Report)

二類感染症の腸管系細菌検出状況 (2005)

2005 年に埼玉県内で分離され、その確認を衛生研究所で行った二類感染症の腸管系細菌は、コレラ菌 1 株、赤痢菌 22 株、チフス菌 1 株でした (表 1)。

コレラ菌及びチフス菌はいずれも海外渡航歴のない国内感染例と思われる患者から分離されましたが、その感染経路は不明でした。

表1 埼玉県の二類感染症細菌検出状況

	コレラ菌	赤痢菌	チフス菌	合計
海外感染		19		19
国内感染	1	3	1	5
合計	1	22	1	24

一方、赤痢菌の推定感染地は、海外感染例が 19 例、国内感染例が 3 例でした。海外感染例で多かったのは、南アジア (インド、ネパール等) と東南アジア (カンボジア、ベトナム等) で、それぞれ 6 株ずつ分離されました。血清型別では、例年通り S.sonnei が 13 株と最も多く分離されました。国内感染例 3 株の血清型は全て異なっており、集積性は見られませんでした (表 2)。

海外旅行においては、生ものや生水の摂取は控え、体調維持に気をつけることが感染防止の第一歩です。また帰国後、下痢等の症状があった場合には医療機関や保健所への相談をお願いします。

表2 赤痢菌の菌型と推定感染地 (2005)

推定感染地 / 血清型	S.boydii 4	S.flexneri			S.sonnei	計
		1b	2a	2b 3a		
東アジア					3	3
東南アジア			1		4	6
南アジア	1			1	4	6
中央アジア					1	1
南米		1	1		1	3
海外小計	1	1	2	1	13	19
国内小計			1		1	3
合計	1	1	3	1	2	14